

# 戸田市教育研究集録

## とだっ子 やり抜く力で 未来に夢を

〈もくじ〉

◆ 挨拶	2
戸田市教育委員会教育長	戸ヶ崎 勤
◆ 埼玉県学力・学習状況調査と教員調査の分析結果について	2
慶應義塾大学総合政策学部准教授	中室 牧子 氏
◆ 今、注目のお二人に聴く・学ぶ！ 戸田市教育フェスティバル	4
国立情報学研究所社会共有知研究センター長	
情報社会相関研究系教授	新井 紀子 氏
東京大学高大接続研究開発センター	
大学発教育支援コンソーシアム推進機構長	白水 始 氏
◆ アクティブ・ラーニング研究員研究経過報告	4
◆ リーディング・スキルの研究	5
◆ 戸田市教職員研修ダイジェスト	5
◆ 教育課題研修指導者海外派遣プログラム	5
◆ 教育センター教科等研究グループ報告	
国語・書写／社会／算数・数学	6
理科／音楽／体育・保健体育	7
外国語活動・外国語／道徳／特別活動	8



### 教育センター教科等研究グループ

戸田市立教育センター教科等研究グループ（教育センター研究員）は、教員としての資質と指導力の向上と、戸田市の教育の充実を目的として研究を推進しています。

今年度は、アクティブ・ラーニングをテーマとして、各教科等の部会で月に1回、教育センターを会場として研究に取り組みました。

※本冊子の詳しい内容については、「Edunet-とだ」に掲載します。

## 戸田市教育委員会



▼戸田市教育委員会公式 Facebook  
<https://www.facebook.com/todaedu>



## 挨拶

戸田市教育委員会 教育長  
戸ヶ崎 勤

平成28年度戸田市立教育センター教科等研究グループ（教育センター研究員）等による研究の成果がまとまりましたので、ここに「戸田市教育研究集録」として刊行いたします。

さて、本市では、これからの時代を生きる児童生徒に身に付けさせたい能力として、21世紀型スキル、非認知スキル、汎用的スキルを掲げています。これらの能力を育成

していくためには、学びの質を高めていくことが重要であり、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進しているところです。教育センター研究員の皆様には、各部会における実践や、リーディング・スキルに係る研究に自主的かつ積極的に取り組んでいただきました。

今後もとだっ子のため、アクティブ・ラーナーとして、不断の授業改善に「やり抜く力」をもって取り組まれることを願っております。

結びに、真摯に研究を進められました先生方に対し敬意を表しますとともに、多くの先生方が学校や教科等の研究の推進役となっただけことを期待申し上げ、挨拶といたします。

## 埼玉県学力・学習状況調査と教員調査の分析結果について

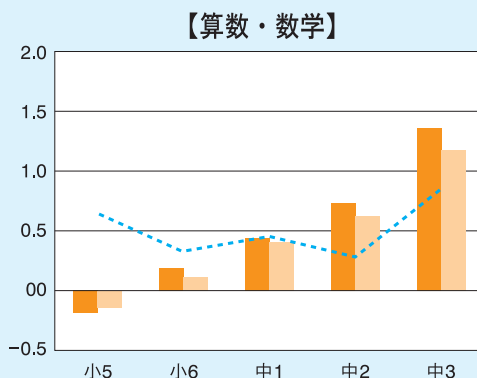
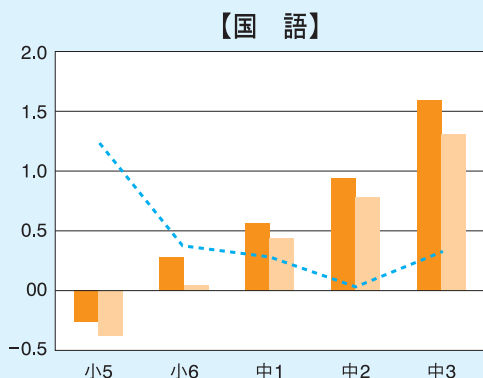


慶應義塾大学 総合政策学部  
准教授 中室 牧子氏

昨年、埼玉県が実施した「埼玉県学力・学習状況調査」にあわせて、戸田市では「教員の指導方法等に関する質問紙調査」を実施し、教員の指導方法等が子供の学力に与える影響についての分析を行いました。ここでは、その結果について簡単にご報告します。

まず、「埼玉県学力・学習状況調査」は、小学校4年生から中学校3年生までの子供の学力や非認知能力の追跡調査で、今年で2年目となります。この「埼玉県学力・学習状況調査」は、項目反応理論（IRT）と呼ばれる手法を用いて、**子供の学力の「伸び」を見ることができ、異なる学年の子供の間でも学力の変化を比較することができます。**

これまでの研究では、子供の学力は、ある一時点でみるのではなく、「伸び」を見るのが重要だと指摘されてきましたが、実際にはこれまでのわが国には、子供の学力の「伸び」を確認することが出来る学力テストは多くありませんでした。このような追跡調査を自治体レベルで行うのは、日本で初めての試みです。



■ H28水準（戸田市）  
■ H28水準（埼玉県全体）  
--- H27からの変化（戸田市）

（注）  
1. 能力パラメータはItem Response Theory（IRT：項目反応理論）を用いて推定された。IRTによって算出された学力水準は、異なる学年でも比較可能。  
2. 能力パラメータの最大値(5.8)と最小値(-5.8)はサンプルから除外した。  
3. 埼玉県全体は、さいたま市を除く埼玉県のすべての公立小・中学校を含む。

※出所：埼玉県学力・学習状況調査

この図表をみると、子供の学力は順調に伸びており、特に通塾率が急速に高くなり、受験が近づく中学3年生の時に伸びが著しいことがわかります。一方、前年の学力からの影響を推定してみると、国語では、前年の学力の変動が今年度の学力の変動の53.6～54.3%を説明しているのに対して、数学（算数）は73.3～82.4%を説明しています。これは、特に国語に比べると数学（算数）は、前年にわからないところがあつてつまずいてしまうと翌年にも大きな影響を残してしまうことを意味しており、数学（算数）は特につまずきの解消や復習を行うことが重要であることがわかります。また、男女差をみてみると、数学

（算数）では男女差はありませんが、国語では、小4～中3まで一貫して女子のほうが学力が高いものの、男女差は学年とともに小さくなってきます。

非認知能力は、今年度から計測を始めたばかりです。将来の収入や学歴などと関係が深いと言われて、「自制心」（小4・中1）、「忍耐力」（小5・中2）、「自己効力感」（小6・中3）を（ ）内の学年を対象にして計測しています。また、学習の効果を高めることを目指して子供が意図的に行う活動である「学習方略」についても、全学年で計測しています。子供の学習方略は、教員からの指導を反映していると考えられています。

今回の分析の中では、この非認知能力は学力との間に統計的に有意な相関があることが確認されましたが、特に「学習方略」は科目や学年に関わらず、相関があることがわかっています。この学習方略を細かく見てみると、下表のように柔軟的

方略、プランニング方略、作業方略、人的リソース方略、認知的方略、努力調整方略にわかれ、特にプランニング方略、認知的方略、努力調整方略と学力の間に統計的に有意な相関があることがわかります。

	国 語	算数・数学
<b>柔軟的方略</b> ・学習の進め方を自分の状態に合わせて柔軟に変更していく方略	0.001 (0.006)	0.005 (0.005)
<b>プランニング方略</b> ・計画的に学習に取り組もうとする方略	0.014 * (0.006)	0.006 (0.005)
<b>作業方略</b> ・(ノートに書いたり、声に出したり) 作業を中心として学習をすすめる方略	-0.009 (0.006)	0.007 (0.005)
<b>人的ソース方略</b> ・友人を利用して学習を進める方略	-0.021 *** (0.005)	-0.023 *** (0.004)
<b>認知的方略</b> ・理解や精緻化、集中力といった認知的な働きを重視して学習を進める方略	0.020 ** (0.007)	0.018 ** (0.005)
<b>努力調整方略</b> ・「苦手」などの感情をコントロールして学習への動機を高める方略	0.031 *** (0.006)	0.044 *** (0.005)
N	2,975	2,901

(注) 1. この回帰分析では、平成27年度の能力パラメータ、生徒の性別(女性0、男性1)、学年、生まれ月、保護者の社会階層(=生活保護・就学援助受給世帯であれば0、その他世帯であれば1)、担任教員の性別(女性0、男性1)、担任教員の勤続年数を制御している。  
2. 標準誤差は分散不均一を修正している。  
3. \*\*\*は0.1%水準で、\*\*は1%水準で、\*は5%水準で統計的に有意であることを示す。  
※出所：埼玉県学力・学習状況調査(戸田市)

つまり、子供に計画的に学習に取り組ませること、理解や精緻化を図ること、「苦手」などの感情をコントロールさせることが重要であることがわかります。

そして、学習方略と指導の関係を見てみると、問題解決型の指導をしている教員が担任している子供は、学習方略のスコア(特に、プランニング方略、作業方略、努力調整方略)が高い傾向にあることがわかります。データからは、戸田市の教

員は、教材研究に時間を割いていることが伺われますが、現状、教員が教材研究をしていることと学習方略の間には有意な相関がみられていません。これは、決して教材研究に意味がないということではなく、教材研究を行う際にも、計画的に学習に取り組ませること、理解や精緻化を図ること、「苦手」などの感情をコントロールさせることを意識して、教材研究を行うことが重要であることを示唆しています。

	ルール	問題解決	主体的	言語活動	調べ学習	教材研究	I C T活用	基礎的
学 習 方 略	—	△	—	—	—	—	—	—
柔 軟 的 方 略	—	—	—	△	—	—	—	—
プ ラ ン ニ ン グ 方 略	—	△	—	—	—	—	—	—
作 業 方 略	—	△	—	▼	—	—	—	—
人 的 ソ ー ス 方 略	—	—	—	—	—	—	—	—
認 知 方 略	—	—	—	—	—	—	—	—
努 力 方 略	—	△	—	—	—	—	—	—

(注) 推計式では生徒の学年と性別を制御している。表中の△は正で統計的に有意、▼は負で統計的に有意、—は統計的には有意ではない関係を示す。  
※出所：教員の指導方法等に関する質問紙調査(第1回)

また、これ以外にも、教員の非認知能力や勤続年数も、学力の「伸び」に影響を与えているということがわかりました。特に、「被受容感」、「感情・欲求抑制」、「持続的対処・根気」などの非認知能力の影響が大きいこともわかっています。ま

た、こうした非認知能力は年齢が高い教員のほうが高い傾向にあることもわかっています。今後も、継続的に調査を続けてデータの質を高め、分析を深めていきますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

# 今、注目のお二人に聴く・学ぶ！ ～戸田市教育フェスティバル～

平成29年1月10日(火)、戸田市文化会館にて「戸田市教育フェスティバル」が開催されました。今年度は、国際的に活躍されている、国立情報学研究所社会共有知研究センター長 情報社会相関研究系 教授 新井 紀子 氏と、東京大学 高大接続研究開発センター 大学発教育支援コンソーシアム推進機構長 白水 始 氏を講師にお招きし、大変興味深い研修会となりました。



## 講演1 「人工知能が大学入試を突破する時代、人は何をすべきか？」

国立情報学研究所社会共有知研究センター長  
情報社会相関研究系 教授  
新井 紀子 氏

### ◆ AIは機械的な学習はできるものの、意味は考えず正しさは保証しない、しかし、けっこう正しい

AIがビッグデータやルール、共通項から答えを導き出す仕組みを説明され、この学習の仕組みが、人間に超えられない点であるとの指摘がありました。

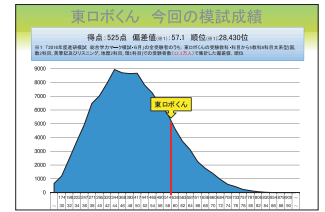
### ◆ 機械的な学びしかできないAIが、すでに多くの子供たちを追い抜いている

ロボットが東大に合格できるかどうか重要ではなく、より大きな課題があることをお話されました。現在、大学模試を通して、「東ロボくん」は多くの有名私大を合

格できるレベルに達していることが証明されています。このことは将来的に人間の仕事の多くをAIが奪っていく危惧を表しています。

### ◆ AIが意味を理解することは困難であるが、人間もまた意味を理解できていないのではないかと

このことをAIが人間を凌駕している原因として挙げ、「中高校生は本当に問題や教科書を読めているのか？」ということについての研究の一端を紹介してくださいました。まとめとして、現在、子供たちの新しい学びについて様々な動きがあるが、「意味が分かる」ようになること、そして、教師がそのことに対する責務を果たすことが重要であることを力説されました。



## 講演2 「新しい時代に求められる資質・能力の育成」

東京大学 高大接続研究開発センター  
大学発教育支援コンソーシアム推進機構長  
白水 始 氏

### ◆ いろいろな意見を集めて編集できるスキル

### ◆ 一人一人が自分で答えを作り出すスキル

創造的な仕事が増え、定型的な仕事が減るであろう新しい時代に、子供たちに身に付けさせたいスキルとして2つのスキルを挙げ、このようなスキルはもともと子供たちがもっているものであり、これらのスキルを伸ばすために協調学習が重要であると述べられました。

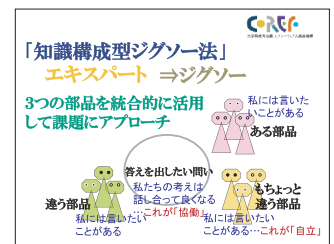
### ◆ 課題が対話を引き起こし、次の探究を生む

教師が課題を提示するからこそ、子供の日常的な発想や経験則を超え、「解決してみたい、一人の力では解決できない」問いになる。そして、一人一人が考えながら対話して答えを出そうとする過程で思考力は自然に引き

出され、深い理解が達成される。また、自由で多様な対話の在り方を保証するからこそ、理解が深まり、一人一人が「主体的に」課題を解決して、自らの次の課題を見つけようとすることを説明されました。

### ◆ 21世紀型“前向き授業”での授業者の仕事とは

解くべき「課題」と与える「部品」で今日の学びの大まかな方向性をデザインし、その中で子供たちにとってほしいものをとにかく回数多く使いたくなる場面を設ける。そして、その中で一人一人が「どこに、どのくらい進んでいったか」を見取り、次の授業のデザインに生かすことの大切さを、具体的事例にふれながら説明されました。



## アクティブ・ラーニング研究員

研究テーマ 教科等の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善に関する実践研究

### ■ 研究テーマ設定の理由

- ・ 児童生徒の「21世紀型スキル」「汎用的スキル」「非認知スキル」を育成するため
- ・ 教科等の本質的な学びを踏まえ、学習・指導方法を改善するため

### ■ アクティブ・ラーニングに関連した研究内容

- ・ 求められる指導要素を明らかにすること
- ・ 指導のためのルーブリックを作成すること
- ・ タブレットを活用したコミュニケーションツールを使用した授業での活用効果を検証すること

### ■ 研究成果

- ・ アクティブ・ラーニングの視点を授業に取り入れることにより、主体性や思考力が高まることが捉えられた。
- ・ アクティブ・ラーニングを促す指導や活動を行う際の、指導のための観点を整理することができた。



アクティブ・ラーニングを促す指導や手立てについて検証しました

# リーディング・スキルの研究

～戸田市教育委員会と国立情報学研究所の共同研究～

## 【リーディング・スキルとは】

教科書や新聞、マニュアルや契約書などのドキュメントの意味および意図を、どれほど迅速かつ正確に読み取ることができるかという能力

(国立情報学研究所「リーディング・スキルテストで測る読解力とは」)

今後、人工知能(AI)が普及していく社会の中で、とどろ子には、「人工知能を活用できる能力」、「人工知能では代替することができない能力」を育成することが大切です。このような能力を育成するためには、どの教科の学習においても、子供たちが文章の意味を理解できる力を身に付けていることが不可欠です。そこで、戸田市では平成27年度から国立情報学研究所と共同で「リーディング・スキル」について研究を進めています。

### テストの問題例

教科書の一文を読み、( )に相当する解答をA～Dから選ぶ。

・Alexは男性にも女性にも使われる名前、女性の名Alexandraの愛称であるが、男性の名Alexanderの愛称でもある。「Alexandraの愛称は( )である。」

正解  A Alex 45%       B Alexander 12%       C 男性 9%       D 女性 33%

開隆堂出版 中学英語教科書 『Sunshine English Course 3』より

上記の問題は、教科書に書かれている文章をもとに作成されています。それにも関わらず、約半数の子供が正しい解答を選択することができませんでした。誤答の選択肢をみると、問題文で問われていることが何かを考えずに、問題文の中で目立つ言葉を選択したり、問題文の単語に隣接する言葉を選択したりしているということが考えられます。このことから、子供たちが教科書の文章の意味を理解しているかを把握することと、リーディング・スキルを身に付けられる授業改善の工夫が必要であることを認識させられます。

### 【平成28年度の本市の取組】

- ・「教科書を読めているか」をより大きなデータで正確に分析するために、リーディング・スキルテストの調査対象を拡大して実施しました。(市内全中学校・全学年全学級、全小学校6学年全学級)
- ・先生方がリーディング・スキルについて理解を深めるために「問題作成研修会」を実施しました。

### 【リーディング・スキルを身に付けられる授業改善の工夫の一例】

- ・問題文に必要な数や言葉を入れた問題子供たちに解かせる。
- ・問うものを自分で決め、問題を作成するような活動を設定する。
- ・クラス全員で問題文を音読して、問題文の意味をとらえながら解かせる。

## 平成28年度戸田市教職員研修ダイジェスト

### ◆課題解決型研修

～intel®との連携による

21世紀型スキル育成のための研修～

インテル開発のオンライン研修コースである「intel Teach Elements プロジェクト型アプローチ」を活用して、児童生徒が自ら考える力を育てる「思考支援型授業」を実現するための「プロジェクト型学習」について学ぶ研修を計画した。

今年度は、各学校から校長の推薦を受けた教員を対象に「戸田市MT(マスターティーチャー)養成研修」を、今年度から本市へ異動・勤務する、戸田市の教育を担う教員を対象に「異動者研修」を実施し、教員としてのライフステージに適した研修を実施した。



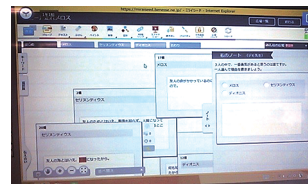
この研修の特徴は、「受講者が研修中、課題について考え、表現し、さらに考えるといったインプットとアウトプットを繰り返す」ことで、受講者は主体的・対話的で深い学びに取り組んだことにある。

研修は、「21世紀型スキルの社会的ニーズ」について学ぶ活動に始まり、「学習者中心の授業デザインの考え方」や「授業プランの改善点の焦点化」、「指導と評価の一体化」「単元計画の作成」など、多くの活動が設定されている。

### ◆新しい学びを促すICT研修

～ベネッセとの連携による研修～

今年度は国語・社会・算数・数学・理科において、ICT(ベネッセミライシード)を活用して、新しい学びやアクティブ・ラーニングを創造する研修を行った。



### ◆英語指導法研修

～青山学院大学との連携による研修～

研修会場に「青山学院大学CALL教室」を御提供いただき、日本の語学教育の第一人者 村川久子先生(現武蔵野大学教育学部 特任教授)に御指導いただいた。



## 教育課題研修指導者海外派遣プログラム

### 平成28年度教育課題研修指導者海外派遣プログラムに参加して

【視察国：オーストラリア(メルボルン・シドニー)】

戸田市立笹目小学校 黒崎 正彦

1 派遣研修概要：研修テーマ「アクティブ・ラーニングの推進」「学校と地域等の連携」

2 訪問施設：(1)メルボルン(教員研修施設、公立学校、州立図書館・博物館)

(2)シドニー(州教育省、カリキュラムサポート機関、公立学校、私立幼小中高一貫校)

3 研修内容：社会的な背景や社会の要請から、各校・各教育施設の特徴や強みを生かしながらアクティブ・ラーニングを推進し、汎用的能力を育成する取組が始まっている。また、中・高等学校ではBYOD(私物のスマートフォンやタブレットを学習で使用する)の導入を進めている学校も見られた。



## 国語・書写

研究  
テーマ

### 日常生活や社会生活で生きて働く国語の力を育成する授業づくり ～アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業改善～

#### ■研究テーマ設定の理由

- ・日常生活や社会生活で生きて働く国語の力を育成することが求められている。そのためにはアクティブ・ラーニングの視点を踏まえ、主体的・協働的な課題解決の学びを引き出す授業づくりが必要だと考え、本テーマを設定した。

#### ■アクティブ・ラーニングに関連した研究内容

- ・主体的な学びを促すための単元を貫く言語活動を設定
- ・自分の思いや考えを広げ深めるための工夫（ジグソー法、挿絵カードの活用、話し合いの場の設定など）

#### ■研究成果

- ・アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業を行うことで、児童生徒が主体的・協働的に学ぶようになった。

- ・学んだことが次の授業や他教科等でどのように活用されるか考えることができた。
- ・思考力、判断力をどのように評価するかを考えていく必要がある。



小・中学校の系統性も考えました。

## 社会

研究  
テーマ

### 児童生徒が自ら答えを探求する学習活動

～思考ツールの活用を通して～

#### ■研究テーマ設定の理由

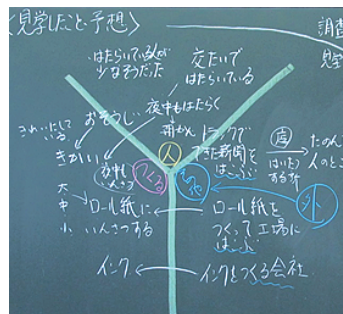
- ・昨年度は「どのように授業を行うか」の研究を深めるため、「知識構成型ジグソー法」に視点をしぼり、児童生徒の基礎的・基本的な力の向上を目指した。今年度は、「思考ツール」の活用を通して「児童生徒にいかに関心を持って自分の考えをまとめさせるか」を研究するために本テーマを設定した。

#### ■アクティブ・ラーニングに関連した研究内容

- ・思考ツールの種類、活用例についての研究
- ・思考ツールを用いた単元の指導計画や指導案作成及び授業の実施
- ・思考ツールを授業で用いたときの、児童生徒の活動の実態の研究

#### ■研究成果

- ・教師が思考ツールについての理解を深めた。
- ・教師が実際に授業で思考ツールを活用することができた。
- ・すべての児童生徒の主体的な学習活動を展開し、基礎的・基本的な力を高める指針となった。



授業で活用した思考ツール

## 算数・数学

研究  
テーマ

### 創造的な学習による21世紀型スキルの育成

#### ■研究テーマ設定の理由

- ・算数・数学が好きな児童生徒及び変化の激しい時代を生き抜く児童生徒を育成するために創造的な学習が必要だと考え、本テーマを設定した。

#### ■アクティブ・ラーニングに関連した研究内容

- ・21世紀型スキルを育成するための創造的な学習の考察・実践の検討
- ・21世紀型スキルを育成するための主体的・対話的で深い学びの在り方

#### ■研究成果

- ・児童生徒自身が既存概念を打破する経験を積み重ねていくことで、創造的な学びが構築され、21世紀型スキルの育成につながることを、実践事例を通して理解

することができた。

- ・CoREFや市内小・中学校における協調学習の指導法や実践事例について協議することで、研究テーマについての理解を深めることができた。



アクティブ・ラーニングと創造的な学習の関連について協議しました。

## 理 科

### 研究 テーマ

## 協調学習を取り入れたアクティブ・ラーニングによる 指導法の工夫

### ■研究テーマ設定の理由

- ・教え込みからの脱却の一つの方法として協調学習の手法を取り入れ「児童生徒の能動的な学びを引き出す」「対話的な学びから思考を活性化する」ために本テーマを設定した。

### ■アクティブ・ラーニングに関連した研究内容

- ・理科における協調学習の 패턴の検討
  - ①異なる実験から、課題解決
  - ②異なる資料から、課題解決

### ■研究成果

- ・児童生徒の関心が高まり、主体的に学ぶ姿勢が見られた。（能動的な学び）
- ・対話的な学びを通して、学習後の振り返りに変容が見られた。（思考の深まり）

- ・エキスパート資料の研究と共有が図れた。
- ・学習の系統性における小・中の連携を強化することができた。
- ・新しいパターンの研究・開発に取り組む。



お茶の水女子大学の協力を受け、授業研究を実施しました。

## 音 楽

### 研究 テーマ

## 音楽の豊かな学びにつながる児童生徒の主体的な活動の探究 ～アクティブ・ラーニングによる授業改善～

### ■研究テーマ設定の理由

- ・音楽科の主体的・協働的な学びとは、〔共通事項〕を支援として楽曲の理解を深めたり、音楽の表現活動を児童生徒主体で行ったりすることである。児童生徒が深い学びを得るために、主体的・協働的な活動を取り入れることが効果的であると考え、本テーマを設定した。

### ■アクティブ・ラーニングに関連した研究内容

- ・児童生徒の主体性を生かし、より深い学びのある授業の在り方の研究
- ・小中が連携した教育の視点での、〔共通事項〕を支援とした授業デザインの研究

### ■研究成果

- ・アクティブ・ラーニングを意識した話し合い活動や協調学習の手法を取り入れることで、児童生徒が主体的に

気付きを交流し合い、意欲的に歌う活動に取り組むことができた。

- ・〔共通事項〕を用いることで、自分の意見を伝えやすくなり、活発な意見の交流ができるようになった。



〔共通事項〕を支援として、楽曲の理解を深めました。

## 体育・保健体育

### 研究 テーマ

## 自己の課題を見つけ、主体的・協働的に運動に取り組む 児童生徒の育成

### ■研究テーマ設定の理由

- ・受動的に活動する児童生徒が多い中、自分たちで課題を発見することが出来れば、その課題解決のためにより主体的に活動できると考えたため、このテーマを設定した。

### ■アクティブ・ラーニングに関連した研究内容

- ・児童生徒同士がタブレットで動きを撮影し、互いに意見交換することを通じた対話的な学びの実現に向けた取組
- ・教えて考えさせる（技能習得ー課題解決学習）学習過程を工夫した深い学びの実現に向けた取組

### ■研究成果

- ・ICTの活用により、主体的な体育授業が実現した。  
→自分の動きを可視化することにより、課題の発見に

つながった。

- ・協働的に学習する姿が見られた。  
→チーム内での具体的な教え合いから、更に一歩進んだ対話ができるようになった。



チームで動きを確認し合っています。

## 外国語活動・外国語

研究  
テーマ

### 児童生徒の主体的な学びを促す授業の工夫

#### ■研究テーマ設定の理由

- 各教科等の学習内容を踏まえたコミュニケーション活動を展開することで、主体的に学ぶ児童生徒の育成を一層図れると考え、このテーマを設定した。

#### ■アクティブ・ラーニングに関連した研究内容

- CLIL (Content and Language Integrated Learning) の活用
- 児童生徒の主体性を引き出すとともに、学びの質を高めるために、各教科等で得た知識や体験の外国語や外国語活動の授業での活用

#### ■研究成果

- CLILを取り入れたことで、期待感をもって授業に臨む児童生徒の姿が見られた。

- 各教科等で得た知識や経験を生かすことで質の高いコミュニケーションを図れた。
- 小・中学校の視点から互いに助言し合うことで、研究の深化・共有ができた。



小・中学校の教員で指導法について熱心に協議しました。

## 道徳

研究  
テーマ

### 児童生徒が主体的に話合う楽しい道徳の授業

～協調学習を生かして～

#### ■研究テーマ設定の理由

- 児童生徒にとって自らの道徳的価値を深め、他者の考えにふれ、道徳的判断力を磨くことは社会を生きるうえで、必要不可欠である。「特別な教科 道徳」の施行に向けて、協調学習などアクティブ・ラーニングを促すことで「考え、議論する道徳」を目ざし、研究テーマを設定した。

#### ■アクティブ・ラーニングに関連した研究内容

- 道徳の授業で有効なアクティブ・ラーニングの手法の研究
- 児童生徒が話し合いを充実させ、自らの考えを深めるための展開の工夫

#### ■研究成果

- 今までの研究と合わせ、より汎用性の高いアクティブ・ラーニングについて研究、実践をすることができた。

- ジグソー法の特徴を生かして、自分と似た考えや異なる意見など多様な価値観にふれる授業を行うことができた。
- 中心発問における工夫だけでなく、それに伴う前後の発問の工夫や、導入・終末の工夫など授業全体を通じた展開の研究を行うことによって、より実践的なアクティブ・ラーニングの研究につながった。



## 特別活動

研究  
テーマ

### 個性の伸長を図る指導と評価の工夫

#### ■研究テーマ設定の理由

- 「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を行い、その実践を交流することを通して、個々の児童生徒が互いの良さや可能性を発揮し、よりよく成長できるような「個が生きる集団活動」を展開していくために、このテーマを設定した。

#### ■アクティブ・ラーニングに関連した研究内容

- 感性を働かせて、思いや考えを基に、よりよい人間関係を築くための話し合いの工夫
- 学びを次につなげる自己の振り返りの工夫

#### ■研究成果

- 児童生徒が集団活動を展開する力を身に付けることで、個性の伸長を図ることができた。

- 思いや願いをわかり合う話し合いを展開することが、学級集団としてよりよい人間関係を築くことにつながった。
- さらに自らの学習状況やキャリア形成を見通せるような振り返りについて一層研究を深めていきたい。



思いや願いをわかり合う話し合いができた。